

科目名	多文化共生教育特論	担当教員	東 智美
科目属性	専門科目 B群	単位数	2単位（面接0.5単位）
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <p>&lt;授業の概要&gt;</p> <p>グローバル化が加速する中で、国籍・文化・宗教・言語など自分と異なる人々との接触や交流の機会が増加し、社会の多文化化が進んできている。日本に暮らす在留外国人数は263万人（2018年6月末現在。法務省HP）と過去最高を記録し、2019年4月1日に施行された改正入国管理法によって、5年間で約34万5000人の外国人労働者の受け入れが見込まれている。在留外国人の増加や国際結婚の増加によって、外国にルーツを持ちながら、日本で教育を受ける子どもたちも増えている。その一方で、在日コリアン（在日韓国・朝鮮人）などのマイノリティへのヘイトスピーチが日常化している現状がある。</p> <p>多民族・多文化化が進む日本において、人種・民族・文化的な違いにかかわらず、すべての子どもに公正で平等な学校や社会を実現していく教育改革が求められている。</p> <p>本授業では、はじめに多民族・多文化社会としての日本の現状と課題を理解した上で、多文化主義のあり方について考察する。次に、多文化共生教育の実践例を学びながら、多様な属性を持つ人々が共に生きる社会を実現するための教育のあり方について考察する。</p> <p>スクーリングの前半では、グローバリゼーションと多文化共生について、重要な論点を補足したうえで、討論を行う。後半では、事例や多文化理解を深めるための開発教育の実践を通じ、多文化共生教育の可能性と課題について考察する。</p> <p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多民族・多文化社会としての日本の現状と課題を理解する。</li> <li>2. 多文化共生教育の意義と課題を理解する。</li> <li>3. 多文化共生に向けた教育をどのように実践していくべきかについて、自分の見解を示せるようになる。</li> </ol>			
<p><b>【授業計画】</b></p> <p>全15回の授業計画は以下の通りである。</p> <p>第1回 多民族・多文化社会としての日本と「日本人」（テキスト①序章～第2章）</p> <p>第2回 マイノリティと差異（テキスト①第3章）</p> <p>第3回 多文化主義の台頭とその批判（テキスト①第4章）</p> <p>第4回 公定多文化主義とネオリベラル多文化主義（テキスト①第5章・第6章）</p> <p>第5回 グローバリゼーションと「排除」（テキスト①第7章・第8章）</p> <p>第6回 マイノリティの社会的包摂とコスモポリタン多文化主義（テキスト①第9章～終章）</p> <p>第7回 多文化教育の理念と枠組み（1）：日本における多文化教育の現状と課題（テキスト②第1章）</p> <p>第8回 多文化教育の理念と枠組み（2）：海外における多文化教育の現状と課題（テキスト②第2章～第4章）</p> <p>第9回 多文化教育と学校（1）：多文化教育の実践（テキスト②第5章・第6章）</p> <p>第10回 多文化教育と学校（2）：幼児期の二言語力の形成（テキスト②第7章）</p> <p>第11回 多文化教育と学校（3）：多文化教育研究と教師の力量形成（テキスト②第8章）</p> <p>第12回 多文化教育と地域（1）：多文化共生に向けた双方向の学び（テキスト②第9章）</p> <p>第13回 多文化教育と地域（2）：多文化共生に向けた市民社会の実践と役割（テキスト②第10章）</p> <p>第14回 多文化教育と地域（3）：在留外国人の市民性形成（テキスト②第11章）</p> <p>第15回 まとめ：多文化共生社会の実現に向けて（テキスト②終章、スクーリング）</p>			
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>「レポート評価」（30%）、「スクーリング評価」（30%）、「科目修得試験」（40%）の割合で総合して評価する。</p>			

**【教科書】**

- ・ 塩原良和（2012）『現代社会学ライブラリー3 共に生きる：多民族・多文化社会における対話』弘文堂.
- ・ 松尾知明（2013）『多文化教育をデザインする：移民時代のモデル構築』勁草書房.

**【参考図書】**

- ・ 田中治彦・三宅隆史・湯本浩之編（2016）『SDGs と開発教育：持続可能な開発目標のための学び』学文社.
- ・ 松尾知明（2020）『「移民時代」の多文化共生論—想像力・創造力を育む14のレッスン』明石書店.
- ・ 松尾知明（2017）『多文化教育の国際比較：世界10カ国の教育政策と移民政策』明石書店.
- ・ S. カールズ+M. J. ミラー、関根雅美・関根薫監訳（2011）『国際移民の時代 [第4版]』名古屋大学出版会.
- ・ 西日本新聞社編（2017）『新移民時代——外国人労働者と共に生きる社会へ』明石書店.
- ・ 鵜飼哲・酒井直樹・テッサ・モーリス＝スズキ、李孝徳（2012）『レイシズム・スタディーズ序説』以文社. 鵜飼哲・酒井直樹・テッサ・モーリス＝スズキ、李孝徳（2012）『レイシズム・スタディーズ序説』以文社.